

## 大分県災害中間支援組織設立準備会 第三回会議 実施報告書

### ◆ 実施概要

- [会場開催 A]  
日 時 : 令和7年 6月10日(水)15:30~17:00  
場 所 : J:COM ホルトホール大分(410 会議室)
- [会場開催 B]  
日 時 : 令和7年 6月11日(木)18:30~20:00  
場 所 : J:COM ホルトホール大分(405 会議室)
- [オンライン開催 C]  
日 時 : 令和7年 6月10日(水)15:30~17:00  
場 所 : ビデオ会議システム「Zoom」
- [オンライン開催 D]  
日 時 : 令和7年 6月11日(金)18:30~20:00  
場 所 : ビデオ会議システム「Zoom」

### ◆ 参 加 者(順不同・敬称略)

- [会場開催 A]5団体  
・合同会社大分ヘリテイジマネジメント(齋藤)  
・NPO 法人べっぴん未来塾(川浪)  
・大分市キャンプ協会(中内)  
・NPO 法人 SAVA SPORTS CLUB(近江)  
・NPO 法人大分県ノルディック・ウォーク連盟(内田)  
[行 政] 大分県生活環境部 協働共助推進室(朝久野)  
[事務局] NPO 法人おおいた NPO デザインセンター(山下、井上)
- [会場開催 B]3団体・1個人  
・ボランティアグループ「暮らしつなぎ隊」(柴田)  
・NPO 法人子育て応援ワクワクピース(漆間)  
・一般社団法人国東人(藤原)  
・西嶋しのぶ  
[行 政] 大分県生活環境部 協働共助推進室(谷口、矢野)  
[事務局] NPO 法人おおいた NPO デザインセンター(山下、井上)
- [オンライン開催 C]3団体  
・TOVS(塩田)  
・NPO 法人クラウンボランティア・ティアドロップ(佐藤)  
・おおいたパパクラブ(山口)  
[行 政] 大分県生活環境部 協働共助推進室(矢野)  
[事務局] NPO 法人おおいた NPO デザインセンター(山下、後藤、井上)
- [オンライン開催 D]6団体  
・NPO 法人まど(中村)  
・発達障害の自助グループ@はーもにあかふえ(山中)  
・ままの輪(矢野)  
・TOVS(加嶋)  
・大分市女性防災士会(上山)  
・大分県社会福祉協議会(森)  
[事務局] NPO 法人おおいた NPO デザインセンター(山下、後藤、井上)

#### ◆ 議事等の進行(会場・オンライン同様)

- オープニング (5分)
- 熊本視察報告 (10分)  
～KVOAD ヒアリングレポート
- 名称・規約・体制について (30分)
- 意見交換 (40分)
- 今後について (5分)
  - ・設立総会
  - ・第一回研修会
- クロージング

#### ◆ 意見・質疑

- 組織を運営するうえで、コンプライアンス・ガバナンスの規定も必要。
- 顧問は設置しておいた方がよい
- 現在私は営利団体の肩書で参加している。非営利の肩書に変えたほうがよければそうするが・・・？  
→ 営利団体のままでもよい。賛助会員でも営利団体を募る予定。
- 会員(構成員)とは団体登録とは別か？  
→ 構成員とは別の扱い。性質上、どの団体がどのような活動をしているかは把握したい。
- コーディネーターの育成というのはとてもいいと思う。専門家として色々な研修を終えた人には修了証を作ってみては？「災害支援コーディネーター」のような資格を作ってみるとよいかも。
- 「とよのくに会議」という名称だが、大分にこだわらず、他の都道府県の方も入ってもらったほうがよいのでは？幅広く、受け入れたほうが良いと思う。
- 今後の会議でも試行錯誤しながらやっていくという認識でよい？  
→ そのつもり。最初から完全な形でやっていくのは難しい。
- 有事の時は社協の連携を優先しなければならない。実際のところ、この中間支援組織について理解しているが、組織整備のプロセスが一番大切だと思う。実際立ち上がって動き出したところで動けなければ意味がない。組織の内外からの信頼がなければ難しい。他の都道府県の災害中間支援組織と比較するとかなり役者不足だと思う。ファンド系・技術系など、核となる団体が欠けている。  
また、県社協のネットワークを置き去りにしているような気がする。社協も入って積み上げの中で組織整備をしたほうが良いのではないかと思う。このまま行くと入会団体もかなり減ってくると思う。実効性を欠く組織になりそう。有事の際は市町のネットワークをベースにしたほうが良いのでは？共同代表な形を採用したりして、一定期間活動していったら、大分に即したものにしていってほしい。
- 意見を言い合えるようになるにはもう少し時間がかかるかと思う。もう少しお互いの信頼関係が出てくるといいと思う。
- (県社協)社協の取り組みについて補足。災害ボランティアネットワークについては全市町村で立ち上げられた。社協以外には災害に特化した団体が少ない。有事の際どうするか？というところで、大分は都市部と比べ外からの支援が期待できない。そのため、内部で連携して対応するために18市町村全てで組み上げている。これは全国的にも珍しく、大分の誇り。社協とどういう連携をしたいのか、訓練をして話し合いをしている。今回その中で大分県災害中間支援組織の設立になる。社協からすると、社協が行っているネットワークにどのように絡んでいけるのか、整合性、役割分担などがまだ見えないため、示してもらいたい。
- 「モデル事業」ということなので「独自のもの」、「従来あるものからアップデートして工夫されたもの」など「モデル」となるような活動を希望。既にあるものは「合同開催」するなど経費削減や連携、補完を意識して行ってほしい。
- 「行動マニュアル」の配布や共有を通してつながり・認知・理解を深めていってほしい。平常であっても個人など情報の取り扱いは「プライバシーポリシー」を作成され、それに基づいて動かれると思うが、緊急災害時の情報についての同規定も必要だと思う。
- 防災教育、減災教育、地域の方々を含めて、平時も有事もその都度で変わってくる。構築するならアンテナを張っておく必要がある。現在は防災・減災コミュニティが増えてきている。アンテナを張っておけば、そういったコミュニティに声掛けして仲間を増やしていける。それが平時の課題。網目を広げる活動をしたほうがよい。日頃防災には関わりがないと思っている団体の方も、有事の際に大きな役割が果たせるということを感じてもらえる、知ってもらえる、そして参画につながる。意外と防災に関係ない団体はない。必ずどこかで役に立つ。
- 社協の方が有事の際に重宝がられるのは、日頃から関わっているため、心の安心にもつながる。傾聴ボランティアの重要性。「聴く覚悟」が大切。
- 情報共有会議は、定例化…例えば毎月第2土曜日とか、そういうふうにあらかじめ決めておいたほうがよいのではないかと？
- 有事の際に組織を動かすコーディネーションが重要になる。コーディネーター・ファシリテーターの育成は重要。ニーズに対して誰がやってもらうのか、判断できる人材を育成することは大切になる。そういう講習会

は早急にやったほうが良い。

## ◆ 会議写真



↑会場開催[A]



↑会場開催[B]

| 項目        | 数値     | 単位 |
|-----------|--------|----|
| 1. 経常収益   |        |    |
| 1. 会費収益   |        |    |
| 正会員会費     | 45,000 | 円  |
| 賛助会員会費    | 10,000 | 円  |
| 賛助会員受取金   | 30,000 | 円  |
| 小計        | 85,000 | 円  |
| 2. 経常費用   |        |    |
| 会費収益金     | 30,000 | 円  |
| 小計        | 30,000 | 円  |
| 3. 受取助成金等 |        |    |
| 受取助成金     | 0      | 円  |
| 受取補助金     | 0      | 円  |
| 小計        | 0      | 円  |
| 4. 事業収益   |        |    |
| 事業収益      | 0      | 円  |
| 小計        | 0      | 円  |
| 5. 経常利益   |        |    |
| 経常利益      | 55,000 | 円  |
| 小計        | 55,000 | 円  |

↑オンライン開催[C]

1. 経常収益

1. 会費収益

正会員会費

賛助会員会費

賛助会員受取金

小計

2. 経常費用

会費収益金

小計

3. 受取助成金等

受取助成金

受取補助金

小計

4. 事業収益

事業収益

小計

5. 経常利益

経常利益

小計

↑オンライン開催[D]

以上